



## 道歯主催学術セミナー

10月16日(土)ホテル・美唄スエヒロにて道歯主催の学術セミナーが開催されました。「初期口腔癌の症状・診断・治療ならびに札幌医大方式による口腔癌治療法とその成績」と題し、札幌医科大学医学部口腔外科学講座小浜源郁教授にご講演いただきました。

当日は折から、早雪が舞おうかという肌寒い生憎の天気でしたが、道歯からも金森学術担当理事にわざわざご足労いただきました。当会は、人数が少なく、それ故、美唄歯科医師会単独でのセミナー開催は、久しぶりのことであり、道歯学術部のご配慮に感謝申し上げるものです。

日常の臨床では、稀ではあるが、決して見落としてはならない初期癌の症状と診断について、実に久しぶりに勉強させていただいたことは、貴重なことでありました。本年度のセミナーが道歯各郡歯全域にわたり、広く啓蒙されることにより、早期発見に大いに貢献することを確信した次第です。小浜先生の強調された、まず化学療法で病変

を小さくし、しかる後、小さなopeで成功させるという、明確な診断に基づくステージ法は、極めて合理的なお考えと拝聴賜りました。

引き続きの懇親会においても、沖縄出身の小浜教授の情熱とうん蓄に圧倒させられることしきりで、今後の一層のご活躍をお祈り申し上げます。

(小森英世記)

## 今秋の<sup>はつかり</sup>初雁の飛来は？白鳥は悲しがらずや

かつては全国的に飛来し、詩や和歌にも多く詠まれた雁のいる風景は沼や干潟、水田などの湿地。それらが日本から姿を消すにつれ、雁も徐々に北へと追いやられてきた。宮島沼（美唄市）に集まるマガンは4万羽余。ここは、水鳥たちにとって最後に残された数少ない安心の場所なのだ。マガンに代表される宮島沼の多くの鳥たちは私達に自然の神秘を教えてくれる。マガンの故郷はカムチャッカ半島北部シベリアのアナドリル地区で、宮島沼まで4千キロの地点を時速100キロの速度で1年に春と秋に飛来する。繁殖地がシベリアだから故郷は他国であっても、9月20日すぎには必ず初飛来して11月初旬沼の結氷ごろ本州の遠い所では米子市水鳥公園外8カ所の湖沼で越冬し、4月にはまた宮島沼に飛来し5月初旬に北帰行する。計算上は日本にいる期間のほうが長い鳥である。秋まき小麦への喰害問題もあって、農家の人々との共存の問題もあり、諸外国ではすでに銃弾は銅に代えられて鉛散弾は日本だけでのみ使用されているため、鉛中毒の尾白ワシの例の如く、中毒によるマガン、白鳥の死亡もあり、一刻も早い鉛銃弾の禁止を望む声は高い。今春、中毒のためシベリアに飛び立つことの出来ない白鳥とマガンが越夏水鳥となって暑さに弱い痛々しい姿をしながら結局死んでいくのは、正にあわれそのものである。白鳥は悲しからずや。

(雨田 実記)

